

ボランティアの心

マジック人生万歳!

空閑義郎（福祉3期・灘区会）

若い頃、近所にプロのマジシャンがいて、よく遊びに行きました。彼が大阪の寄席に出演するときには出かけて行って、舞台上に展開される不思議な世界に魅了されたものです。ある時、彼から「神戸にマジッククラブができる。興味があれば参加しませんか」と誘われたのが、私がマジックを始めるきっかけとなりました。

シルバーカレッジで2年生になった平成9年4月のこと。しあわせの村で開催されている「グリーン・セミナー」（高齢者健康教室）の趣味講座で「6月の講師をやってほしい」と依頼されました。セミナーには、軽いスポーツ、医師や栄養士の話、趣味講座などが組み込まれていました。

私の趣味講座では、簡単なマジックを体験してもらったのですが、参加者全員が生き生きと挑戦し、楽しんでいました。その中に、左手が少し不自由な男性がおられ、一生懸命がんばる姿が印象的で

した。後で奥さまから「こんな元気な主人を見て感激です」と感謝の言葉をいただいたことが、今も忘れられません。

このセミナーで受けた感動から、趣味のマジックを生かして社会に奉仕しようと決意し、平成9年にマジッククラブを創設しました。それも自分ひとりをするのではなく、クラブ仲間のレベルアップをはかりながら、一緒になって多くの人々に楽しさを提供し、ささやかでも社会に還元しよう、と心に誓いました。



あれから15年、今では仲間にも教えたマジックの種類も200を超えました。平成23年のボランティア活動は84回。のべ60名が参加し、4000名の人々に楽しんでもらいました。お客には喜びを与え、自分たちも少し優越感にひたりながら、今日も元気でマジックに励んでいます。マジック人生万歳!

＝写真は2010年のマジックの祭典から



賀川ハルの生涯

没後30年に寄せて

賀川ハル(1888～1982)は、賀川豊彦と24才で結婚し、同志として豊彦を支えて、豊彦亡き後22年間に亘って事業を

引き継ぎ、1981年93才のとき、69年間に及ぶ社会福祉活動により名誉都民の称号を授けられた。

ハルの没後30年の今年5月5日、賀川記念館の語り部(17名)が次の4テーマに分かれて研究調査し報告しました。以下はその概要です。

①豊彦の同労者としてのハル ②文化人としてのハル ③大蔵大臣としてのハル ④ハルは女性として幸せだったか?

ハルの母方の祖父は下級武士の出身で、裕福な家庭に育ち両親から愛情をいっぱい受けるが、家が3度火災にあって没落し、ハル14才の頃家計を助けるために1年間女中奉公に出ます。16才の時神戸に一家で転居し、印刷工場の女工になります。

賀川とは出会いから2年後に結婚し、生活は神戸新川の貧民窟で始まります。賀川のアメリカ留学(1914年)と共に、ハルも横浜の共立女子神学校に入学しました。ハルにとっては神学校の生活が生

涯で最も心おきなく勉強することができた時期であったかもしれない。1917年神学校を卒業し、神戸新川に戻ります。トラホーム予防のため点眼薬をもって巡回診療中に感染し、右目の視力を失いました。

1920年処女作「貧民窟物語」を出版。1923年自伝「女中奉公と女工生活」を出版し、働く婦人の地位向上と教育・啓蒙に尽力しました。1922～1929年にかけて1男2女を出産し、立派に育てている。

1923年9月1日の関東大震災後、賀川は救援のため上京、ハルも子供を背負って救援物資集めに奔走。10月末には救援活動のため一家で東京に転居しています。ハルは教会の一室で、カウンセラーとして悩みごとの相談にも応じていました。

賀川はハルを次のように紹介しています。「赤字の決済を処理する私の大蔵大臣だ」。賀川の場合はハルの精神であり、賀川の魂とハルの魂は信頼の絆でしっかりと結ばれていました。

1955年、4か月にわたり在米イエス友の会の招聘でアメリカ伝道旅行に行き、次女梅子の通訳で125回の講演を行う。

1960年、賀川の事業を引き継ぎ、1982年死去。

(賀川記念館語り部 郷肥三・福9期)